



SSH
Super Science High school

Tokyo Metropolitan Kokubunji High School

BUNJI-SSH NEWS

No.5
令和7年
10月4日発行

《巡検・研修》SSH 筑波研修を実施しました

8月18日(月)にSSH 筑波研修を実施しました。午前中は、JAXA 筑波宇宙センターで研修しました。展示館「スペースドーム」を見学した後、宇宙飛行士養成エリアと「きぼう」運用管制室の視察をしました。午後は、高エネルギー加速器研究機構で研修しました。コミュニケーションプラザを見た後、放射光実験施設「フォトンファクトリー」と「BelleII 実験」を見学しました。先端の研究に触れ、科学技術への興味・関心が高まるとともに、科学技術への理解が深まりました。



JAXA 筑波宇宙センター見学中



KEK フォトンファクトリー見学中



JAXA 筑波宇宙センターでの集合写真

【参加した生徒の感想】

- 放射線を用いて様々なことを研究していることが、一番の記憶に残っています。放射線といえばレントゲンや福島原発事故でしたが、研究に使われていると知りとても驚きました。研究方法、研究内容全てが知らないことだらけで、世界の広さを感じました。
- 今回のSSH 筑波研修で高度な様々な技術を理解しました。また、まだまだ宇宙にはたくさんの未知の世界、謎があることも分かりました。これから先どんなことが明らかになっていくか楽しみです。宇宙への好奇心がより高まったので、これからの自分の将来の選択についてより考えていきたいです。多くの貴重な経験ができて良かったです。
- 高さ50メートルにもなるロケットや、膨大な量のコイルと巨大な加速器を生で見ると、人間はこんなものを味方につけてしまったんだと恐ろしく感じました。自然現象の根本を、物理という学問で解析し始め、ついには目に見えない光を自由に操れるようになり、ついには大気圏外へと目指したことにより、現代社会が成り立っていると体感できました。

《社会連携》文化祭で「ぶんじカレー」を販売しました

【企画・運営に携わった生徒の感想】

- 今年度の文化祭にて、活動当初からの目標であった「ぶんじカレーの販売」を実現することができました。初の試みで不安もありましたが、2日間で700食近くを販売することができ、たくさんの方に私たちの活動に興味を持っていただけてとても嬉しかったです。今回販売した「チャンネルキャットフィッシュカレー」は、主に55期生が試作を繰り返しリニューアルした新作です。スパイスの調合から見直しココナッツミルクたっぷりの本格的アジアカレーに仕上げました。また、会場では活動報告ポスタ



カレー販売の様子

一の展示や霞ヶ浦での現地調査・試作時の写真の投影も行い、校外外・幅広い世代の方に興味を持っていただきました。今回の文化祭は、社会問題について考えるきっかけを多くの人に届けることにもつながっていると実感しています。(3年生)

- ・ 今回初めてぶんじカレーの販売に立ち会いました。第1弾のカレー製作時の失敗談や苦労談を先輩方から聞いていたため本当に良かったと思いました。さらに、展示を通して多くの人にこの活動を知ってもらうことが活動のモチベーションになり、より多くの人に活動を発信していきたいと思うことができた2日間でした。今後は今回の達成感を原動力にして、56期×57期を中心に規格外レンコンの廃棄削減に取り組んだカレーを製作していきます。(2年生)



「チャネルキャットフィッシュカレー」

《学会発表》日本鳥学会でポスター発表をしました

9月13日(土)・14日(日)に北海道で開催された「2025年度日本鳥学会」に生徒4名が参加しました。この学会では、メインの口頭発表はもちろんのこと、鳥の学校、北海道大学植物園での体験型見学会など多くの催し物も企画されています。13日午後には、『見えざる飛翔の軌跡：春夏秋冬朝昼晩、カラスバトのルーティーンを暴け!』、14日午前中には、『あかぼっぽってどんな子育て? あかぼっぽのコミュニケーションの姿を見た』を高校生・小中学生ポスター発表の部で発表しました。

【参加した生徒の感想】

- ・ 今回の鳥学会では、小笠原諸島の父島で行った観察とインタラクティブ実験の結果とその考察、アカガシラカラスバトの鳴き声の意味と育雛に関する発表をしました。聞いてくださる方々も鳥類を対象とした研究を実践しているため、質問やアドバイスがとても的確で、多くの刺激を受けることができました。特に、これまで考えたこともなかった方面からも多角的なアドバイスをもらえたことで、今後、自分たちの研究をどのように広げていけば良いのか考えるきっかけとなりました。
- ・ 今まで先輩方に答えていただいていた質問も事前に自分で答えられるように準備し、しっかりと受け答えすることができました。この経験を通して発表の自信をつけることができたと思います。発表の中で多くの方々からアドバイスをいただくことができた経験が今後の研究の参考になったので、今回の発表での経験をこれからの探究活動にもしっかり活かしていきたいです。
- ・ 私は鳥学会でGPS班としてポスター発表をしました。GPS班は夏に大島動物公園でデータが取れなかったり、既存のデータはすでに研究されていたりと行き詰っていました。今回鳥学会で発表できたことで、安藤博士を含む様々な方からアドバイスをいただき、今まで霧がかかっていたGPSの研究に希望が見えました。その希望をつぶさずにアドバイスを取り入れて、より分かりやすいグラフ作成や考察を行い、研究を魅力的なものとし学術性も高めていきたいと思っています。

日本鳥学会とは

1912年発足。発起人は、東京帝国大学動物学教室の飯島魁教授。現在の会員数約1200名。この分野でのほぼ国内唯一の学会である。会員は、大学や研究機関だけでなく一般の個人や団体も加入できる。野生の鳥類の研究は、在野の研究家にも重みがあり、敬意が払われることが、他の分野の学会と異なる特長である。



GPS班の発表の様子



音声班の発表の様子